

■ 概況

4/1～4/7のNYMEX・WTI先物市場は、58.65～61.45ドルの範囲で推移した。

4月8日は、欧州における都市封鎖の拡大、インド・ブラジルにおける新規感染者の再拡大など、新型コロナの影響長期化による需要の伸びの鈍化懸念、また、OPECプラスによる5月以降の供給拡大の懸念などが、再認識され3日ぶりに反落した。5月限の終値は前日比0.17ドル安の59.60ドル。

9日は、引き続き、新型コロナの感染再拡大によるエネルギー需要の伸びへの懸念、OPECプラスの減産緩和への警戒感から、続落した。なお、米国内で稼働中の石油掘削装置は前週末比横ばいの337基。5月限の終値は前日比0.28ドル安の59.32ドル。

週明け12日は、中東における緊張の高まり、外為市場のドル安進行に伴う原油先物の割安感、安値拾いの買い等で、3営業日ぶりに反発した。イエメンの親イラン反体制組織フーシは、サウジの石油施設にドローン攻撃を行ったとの発表を行ったが、サウジ側からの確認はない。また、イラン当局は、ナタンズの核実験施設にイスラエルによる破壊工作があったと発表した。ただ、上値は重かった。5月限の終値は0.38ドル高の59.70ドル。

13日は、中国税関当局が3月の原油輸入が前年同月比38%増と4年ぶりの増加となったと発表、また、この日発表のOPEC月報が2021年の世界需要を上方修正し、これらを支援材料として続伸した。5月限の終値は前日比0.48ドル高の60.18ドル。

14日は、米国エネルギー情報局(EIA)の週間在庫報告で、米国内原油在庫が市場予想を大きく上回る取り崩しとなり、

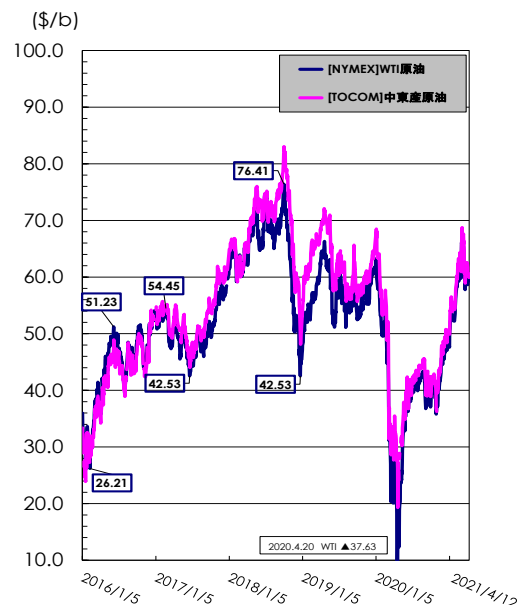
ガソリン在庫も減少したこと、また、同日発表の国際エネルギー機関(IEA)の月報でも、2021年世界石油需要見通しが上方修正されるなど、石油需給への楽観的見通しによって、3日続伸した。5月限の終値は前日比2.97ドル高の63.15ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(6月渡し)は、4月1日～7日の間61.00～63.20ドルの範囲で推移した。4月8日61.10ドル、9日61.30ドル、12日60.80ドル、13日61.70ドル、14日62.70ドルと推移した。

為替は4月1日～7日の間109.82～110.82円の範囲で推移した。4月8日109.83円、9日109.31円、12日109.75円、13日109.58円、14日108.85円で推移した。

そのような中で、4月12日時点の小売価格は、ガソリンが前週(4月5日)比0.1円の値上がり、軽油は横ばい、灯油は2円の値上がり(18㍻ベース)だった。ガソリンは2週ぶりの値上がり、軽油は20週ぶりに値上がり止まり、灯油は20週連続の値上がりだった。この週(4月第2週)の原油コストは値下がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、前週比1.5円の値下げとなった。

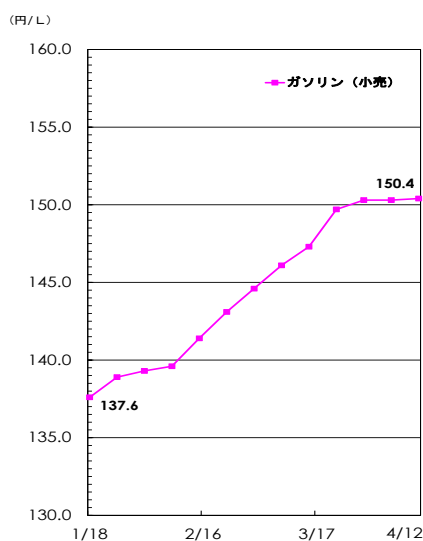
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	4/4 ~ 4/10	2,719 ▲46	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	70.7 ▲1.2	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	4/10	11,163 ▲939	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	4/12	59.92 ▼-1.78	▲27.9
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	4/12	59.70 ▲1.05	▲37.3
	原油CIF単価 (\$/bbl)	3月中旬	60.95 ▲1.35	▼-1.21
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	40,889 ▲1,266	▼-1,339
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	106.66 ▼-0.96	▲1.34
	外国為替TTSレート (¥/\$)	4/12	110.75 ▲0.89	▼-1.52



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/4 ~ 4/10	874 ▲ 68	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	823 ▲ 37	▲ -	
	輸出	"	5 ▼ -78	▼ -	
	在庫	4/10	1,789 ▲ 46	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/6 ~ 4/12	59.5 ▼ -0.3	▲ 24.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/6 ~ 4/12	56.0 ▼ -0.7	▲ 26.4
		(TOCOM/中部)	4/12	57.5 ▼ -1.0	▲ 26.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/12	150.4 ▲ 0.1	▲ 18.5	

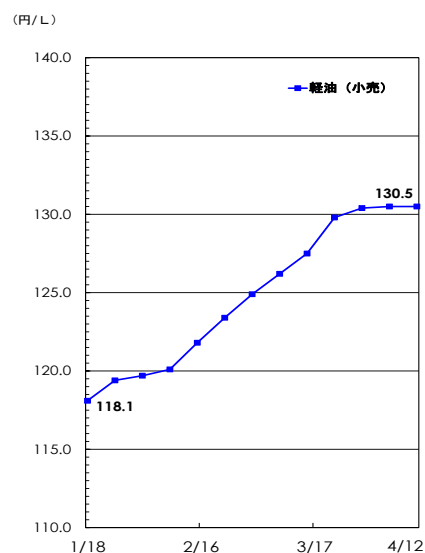
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

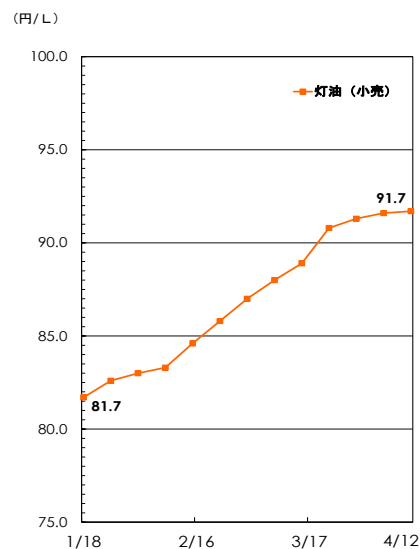
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/4 ~ 4/10	660 ▼ -80	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	606 ▲ 34	▲ -	
	輸出	"	5 ▼ -109	▼ -	
	在庫	4/10	1,518 ▲ 50	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/6 ~ 4/12	61.9 → 0.0	▲ 24.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/6 ~ 4/12	62.1 ▼ -0.6	▲ 19.5
		(TOCOM/中部)	4/12	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/12	130.5 → 0.0	▲ 17.2	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/4 ~ 4/10	204 ▲ 72	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	169 ▼ -54	▼ -	
	輸出	"	0 → 0	→ -	
	在庫	4/10	1,465 ▲ 35	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/6 ~ 4/12	61.2 ▲ 0.1	▲ 24.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/6 ~ 4/12	55.5 ▼ -1.0	▲ 21.5
		(TOCOM/中部)	4/12	57.5 ▼ -1.6	▲ 20.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/12	91.7 ▲ 0.1	▲ 10.3	



■ 関連情報

1 海外/原油

4月14日のNYMEXのWTI先物原油は、同日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の週間在庫報告で、米国内原油在庫が前週末比590万バレル減と市場予想(同290万バレル減)を大きく上回る取り崩しとなり、ガソリン在庫も減少したこと、また、前日のOPEC月報に続き、同日発表の国際エネルギー機関(IEA)の月報でも、2021年世界石油需要見通しが上方修正され、需給改善に向かっているとコメントされるなど、石油需給への楽観的見通しによって、3日続伸した。5月限の終値は前日比2.97ドル高の63.15ドル、6月限の終値は同2.98ドル高の63.22ドル。

EIAによると、4月12日時点のガソリンの小売価格は、前週比0.8セント値下がりの1ガロン2.849ドル(83.3円/ℓ)、ディーゼルは同1.5セント値下がりの3.129ドル(91.4円/ℓ)となった。ガソリンは2週ぶりの値下がり、ディーゼルは3週連続の値下がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2021年4月4日～4月10日に休止したトッパー能力は76.2万バレル/日で、前週に対して4.3万バレル/日増加した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は271.9万klと、前週に比べ4.6万kl増加。前年に対しては24.2万klの減少。トッパー稼働率は70.7%と前週に対して1.2ポイントの増加、前年に対しては4.9ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてジェット、軽油が減産、その他の油種で増産となった。ガソリン/8.5%増、ジェット/8.2%減、灯油/54.7%増、軽油/10.8%減、A重油/4.8%増、C重油/27.3%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.0万kl減)。軽油の輸出は0.5万kl(前週比10.9万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でジェット、灯油が減少、その他の油種で増加となった。前年比でガソリン、ジェット、軽油、C重油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は82.3万kl(対前週4.7%増)と2週振りが増加した。ジェット8.6万kl(対前週26.3%減)、灯油16.9万kl(対前週24.1%減)、軽油60.6万kl(対前週5.9%増)、A重油18.6万kl(対前週19.4%増)、C重油17.8万kl(対前週19.2%増)。

(単位:千kl)

	今週 (4/4 ~ 4/10)	前週 (3/28 ~ 4/3)	前週比	
ガソリン	823	786	▲ 37	(5%)
ジェット燃料	86	117	▼ -31	(-26%)
灯油	169	223	▼ -54	(-24%)
軽油	606	572	▲ 34	(6%)
A重油	186	156	▲ 30	(19%)
C重油	178	150	▲ 28	(19%)
合計	2,048	2,004	▲ 44	(2%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

4月10日時点の在庫は、全油種で積み増しとなった。前年に対しては全油種で増加となった。

ガソリンは178.9万kl、前週差4.6万kl増。前年に対しては3.7万kl多い。

灯油は146.5万kl、前週差3.5万kl増。前年に対しては12.8万kl多い。

軽油は151.8万kl、前週差5.0万kl増。前年に対しては22.6万kl多い。

A重油は75.4万kl、前週差1.7万kl増。前年に対しては5.3万kl多い。

C重油は184.5万kl、前週差8.3万kl増。前年に対しては5.3万kl多い。

(単位:千kl)

	今週 (4/10)	前週 (4/3)	前週比	
ガソリン	1,789	1,743	▲ 46	(3%)
ジェット燃料	780	767	▲ 13	(2%)
灯油	1,465	1,430	▲ 35	(2%)
軽油	1,518	1,468	▲ 50	(3%)
A重油	754	737	▲ 17	(2%)
C重油	1,845	1,762	▲ 83	(5%)
合計	8,151	7,907	▲ 244	(3.1%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

4月6日～12日の指標原油価格は前週(3月30日～4月5日)比で値下がりし、為替レートも円高で、円建ての原油コストは値下がりしたと見られる。

これを受けて、次週の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社前週比1.5円の値下げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

4月6日～12日の製品スポット市況は、3月30日～4月5日平均と比べ、海上のガソリン、陸上の灯油、陸上・海上の軽油の取引を除いて、他の取引は値下がりした。

直近(4/6～4/12)の陸上スポット価格平均値(千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格)は、前週比で、ガソリンは0.3円の値下がり、灯油は0.1円の値上がり、軽油は横ばいだった。直近週(4/6～4/12)において、ガソリンは112～113円台で値下がり、灯油は60～61円台でわずかに値下がり、軽油は61～62円台でわずかに値下がりして推移した。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(4/6～4/12)に、前週比で、ガソリンは0.3円の値上がり、灯油は0.4円の値下がり、軽油は0.4円の値上がりだった。海上スポット価格は、同期間(4/6～4/12)に、ガソリンは114円台でわずかに値下がり、灯油は56～57円台で値下がり後回復、軽油は63円台で値上がり後値下がりして推移した。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは0.7円の値下がり、灯油は1.0円の値下がり、軽油は0.6円の値下がりだった。先物価格は、同期間(4/6～4/12)に、ガソリン109円台でわずかに値下がり、灯油55円台でわずかに値下がり、軽油62円台でわずかに値上がりして推移した。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー 4地区平均]		今週 (4/6～4/12)	前週 (3/30～4/5)	前週比
ス ポ ッ ト 価 格	レギュラー	59.5	59.8	▼ -0.3
	灯油	61.2	61.1	▲ 0.1
	軽油	61.9	61.9	→ 0.0

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値 平均]		今週 (4/6～4/12)	前週 (3/30～4/5)	前週比
先 物 価 格	レギュラー	56.0	56.7	▼ -0.7
	灯油	55.5	56.5	▼ -1.0
	軽油	62.1	62.7	▼ -0.6

※上記価格は税抜き価格

参考値 (4/6～4/12実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.3	▼ -0.7	▼ -0.5
灯油	▲ 0.1	▼ -1.0	▼ -0.4
軽油	→ 0.0	▼ -0.6	▼ -0.3
A重油	▲ 0.3		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

4月12日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週(4月5日)比0.1円高の150.4円、軽油は同横ばいの130.5円、灯油は18%ペースで同2円高の165.1円(1%ペースでは同0.1円高の91.7円)。ガソリンは2週ぶりの値上がり、軽油は20週ぶりに値上がり止まり、灯油は20週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは22都府県、横ばいは6県、値下がり19道県だった。全国最安値は143.9円の徳島県(前週比0.1円安)、その次に安かったのは145.1円の埼玉県(同0.1円安)、最高値は158.6円の鹿児島県(同0.5円安)だった。最も値上がりしたのは同1.7円高の東

京都(154.6円)で、横ばいは福井県など6県、最も値下がりしたのは同1.2円安の栃木県(148.4円)だった。

今週(4月6日～12日)は、指標原油価格が値下がりし、為替レートも円高で、円建ての原油コストは値下がりしたと見られる。次週(4月15日～21日)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社前週比1.5円の値下げとなった。次回調査時(4月19日)のガソリンの小売価格は小幅な値下がり予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (4/12)	前週 (4/5)	前週比	直近高値	
小 売 価 格	レギュラー	150.4	150.3	▲ 0.1	08/8/4 185.1
	灯油	91.7	91.6	▲ 0.1	08/8/11 132.1
	軽油	130.5	130.5	→ 0.0	08/8/4 167.4

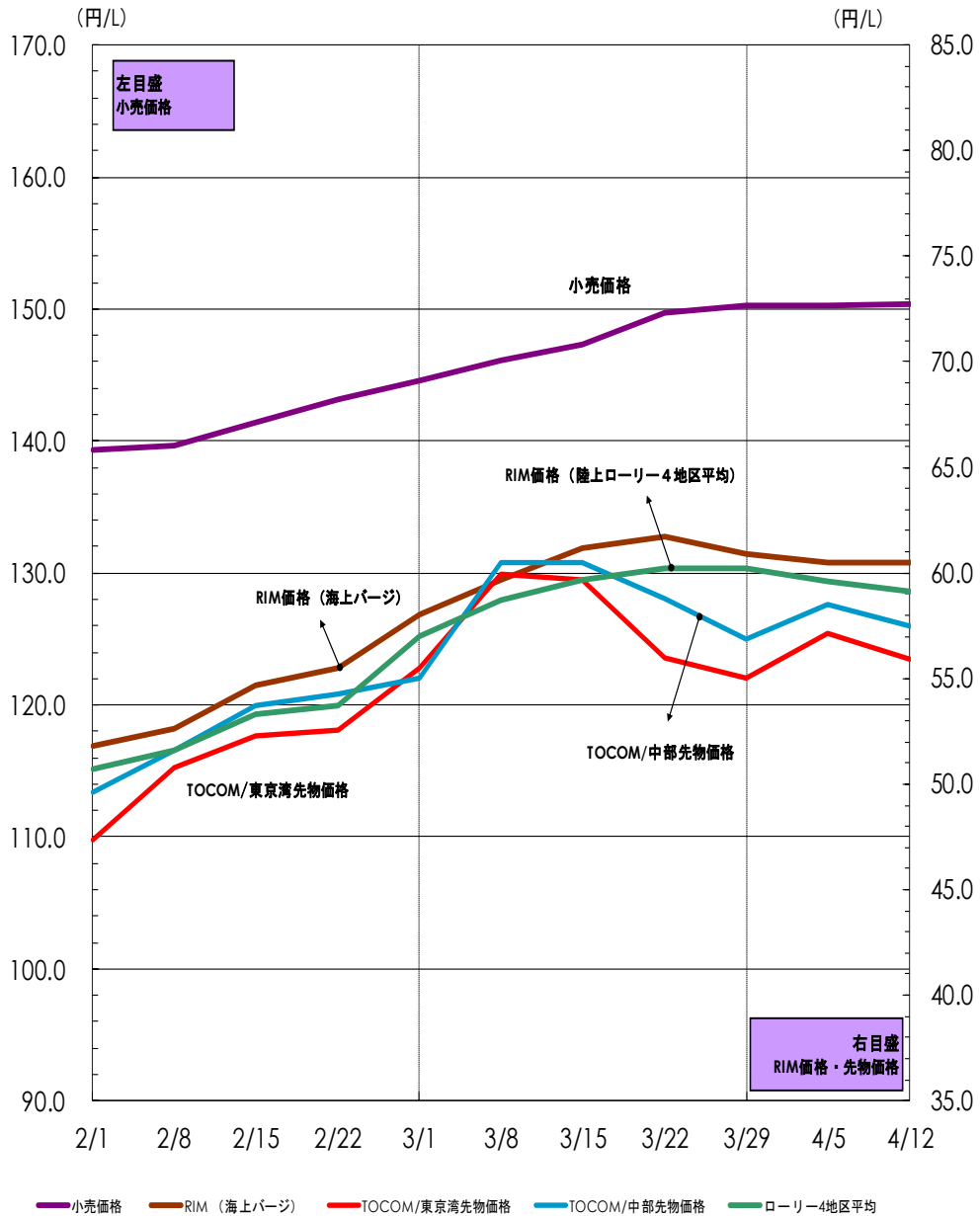
※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2021/2/1 ~ 2021/4/12)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回 (2021第4号) の公表は、4/23 (金) 14:00 です。

「セルフSS出店状況」(令和2年3月末現在) は、8月26日 (水) 14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。